ラリグラス・ジャパン News Letter

#02
2019
3月号

うららかな春の日差しが心地よい季節となりました。皆さまにはますますご健勝のことと存じます。

改めまして、いつもご支援をいただき、ありがとうございます。おかげさまで、「マイティ・ネパール」「NDWS」「レスキュー・ファンデーション」のいずれも、活動を継続することができています。

マイティは、アヌラダさんが知事就任を機に代表を退き、副代表であったビシュワさんが引き継ぐことになりましたが、今も両者連携のもと、さらに積極的な活動を展開しています。こと、ネパール政府の協力を得た活動には目を見張るものがあり、今後のさらなる展開が期待されるところです。

レスキュー・ファンデーションも、新たにデリー・シェルターを開設したことによって、救出活動の幅が広がり、被害者をケアしやすくなったと話しています。ムンバイやプーネのシェルターにおいても、以前から行っていたヨガやアートテラピーの内容がより充実され、心身の回復に効果をもたらしています。

NDWSについても、規模は決して大きくはありませんが、子どもたち一人ひとりに手厚いサービスを提供し、地道な活動を続けています。

こうした現地団体の活動を支えることが、ネパール・インドの女性と子どもたちの幸福を守ることだと信じています。

どうぞ、これからも温かなご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

認定NPO法人 ラリグラス・ジャパン
〒108-0072 東京都港区白金3-10-21　TEL&FAX 03-3446-2193
E-mail：info@laligurans.org　http://www.laligurans.org

現地活動報告　マイティ・ネパール

近年、出稼ぎの斡旋業者によるサウジアラビアやドバイへの人身売買が横行している。しかし、中東諸国はあまりに遠く、被害は認識されているものの、救出の手を差し伸べられない状況にある。つまり、売られてしまえば取り返しがつかないということだ。

そうしたなか、大きな成果があった。新年を迎えて間もない頃、計182人の女性が救出されたのだ。

この大掛かりな救出ミッションは、マイティにもたらされた情報に始まる。ある男性が、「妹が行方不明になった」と相談に訪れた。マイティは、その男性を施設内に待機させ、通信アプリを使って妹とコンタクトをとるよう指示した。妹の携帯はほとんど電源が入っていなかったが、ほんの一瞬、オンになった。その機に所在を聞き出したところ、ミャンマーの首都ヤンゴンにいることがわかった。

マイティは、すぐにミャンマー大使館に救出を要請した。ミャンマー政府は妹のもとに乗り込み、救出に成功した。彼女はネパールに送還され、マイティに保護された。

証言により、インド、ミャンマーを経由し、イラクやドバイへ密入国させるという、新たな人身売買ルートが判明した。その情報をもとに、レスキュー・ファンデーションをはじめとするインドのNGOネットワーク、インド警察、ネパール警察が協力し、救出作戦を決行。その結果デリーから6人、インパールから176人、計182人の女性が保護された。ミャンマーを経由し、イラクとドバイに売られる寸前のところだった。

女性たちは、一定の訴訟手続を終えた後、ネパールに送還される。マイティがすべての女性にリハビリを施した後、親許に帰す予定だが、希望者には、職業訓練の機会を提供するとのことである。

保護された女性たち

こうした被害を未然に防ぐため、マイティは積極的に啓発活動を行っている。たとえば、国際移民デー（毎年12月18日）には、ネパール・インドの国境において、7日間のアウエアネス・キャンペーンを行った。国境の監視業務は、マイティの重要な活動のひとつである。365日、国境を越える人に目を光らせているのだが、この間は通常の業務に加え、出稼ぎに潜む危険について案内し、チラシを配布するなどした。

また、啓発活動の一環として、'18年秋から「人身取引と暴力」をテーマとした自主制作ドキュメンタリーの公開を始めた。マイティに保護される女性たちが自らの意思で制作に協力し、カメラの前で実体験を語ったものだ。

11月4日、犯罪の多発地帯とされるシンドパルチョークにおいて、地域の学生や教員を対象に初の上映会を行った。また、犯罪から身を守るためのノウハウについてレクチャーしたとのことだ。かつては貧困家庭の出身者がメインターゲットとされていた人身売買だが、昨今は、充分な教育を受けた普通の家庭の子女にも被害が及んでいる。今後も学生を対象とした啓発活動に力をいれていくとのことである。

人身売買問題の解決には、インドとの協力が必要不可欠だ。そのため、マイティとネパール子ども福祉省が協力し、12月26日、ネパール・インド間の関係者会議が実施された。ネパール側からは、ネパール警察、武装警察、全国調査部、検察官、ジャーナリスト、女性と子どもサービスセンター責任者らが出席し、インド側からはビハール警察、鉄道警察、NGOなどが出席した。これまで、積極的な連携がみられなかった両国の政府機関だが、これを気に、より強固な協力関係を育んでほしいと願う。

ドキュメンタリーの上映会

国境での啓発活動

レスキュー・ファンデーション

'93年の設立以来、1万人あまりの人身売買被害者を売春宿から救い出してきたレスキュー・ファンデーション。'08年の救出者は194人に上った。

かつて、被害者の国籍はインドとネパール、バングラデシュに限られていた。しかし昨今、売春街に変化が見られるという。カンボジア女性がドバイ経由でインドに売られてきていたり、ロシアやタイ、トルクメニスタンやウズベキスタンの女性も被害に遭っているらしい。ロッジやスパ、マッサージ店などで売春を強要されているそうだ。'18年に救出したなかにも、タイ（15人）、ロシア（2人）、ウズベキスタン（7人）、ウガンダ（2人）、ラオス（1人）などの国籍を持つ被害者が含まれていたとのことである。

外国籍の被害者のケアは、言葉が通じないため非常に困難だ。訴訟にも最低1年は要し、母国に送還するのも容易ではない。トリベニさんがいう。

「送還依頼に対しタイ大使館からは回答がありましたが、ウズベキスタン大使館は無視を決め込んでいます。そうするうちに、女の子が自殺してしまいました。救出して6カ月後のことです。今後も外国籍の被害者は増えるはず。早急な対策が必要です」

レスキュー・ファンデーションは、救出した被害者に対し、さまざまな教育の機会を提供している。学齢期にあればインドのカリキュラムに準じた学校教育を、それ以上の年齢であれば職業訓練を行っている。とくに後者は実践的で、バッグやアクセサリーの制作技術は、充分、市場に通用するレベルのものだ。マーケットに卸し、賃金を得ている女性も少なくない。施設を出た後の生活費に充てられるよう各々の口座を開設し、貯金しているとのことである。

こうして社会に帰る日を整えるわけだが、大半の女性が望むのは、自立よりも結婚だ。もちろん、自分で稼ぐことの喜びも実感してはいるのだが、生涯独身を通し仕事にかけるなどという女性は1人もいない。インド社会において、女性1人で生きることは極めて難しい。安全を確保するためにも新たな家族を持つことが必要なのだ。こうして始まったブライダル・プロジェクト。'16年には5組、'17年には4組のカップルが誕生した。ご協力くださった方々に改めて感謝の意を表します。

ネパール障がい者女性協会（NDWS）

'18年12月、NDWSはネパールで活動する障がい者の当事者団体「自立生活センター」と協力し、新たなプログラムを実施した。NDWSに登録している成人した障がい者たちが自立して地域社会で生活できるようになるためのワークショップを開催した。この自立生活センターは、日本での研修に参加し、障がい者の社会参加や就労について学んだ当事者が設立したもので、現在も認定特定非営利活動法人AMDAの支援を受けている。ワークショップでは、NDWSに登録している障がい者4軒の家庭を訪問。現在の生活状況や社会参加の状況について聞き取った。サビットリさんは以前デイケアセンターに通っていたが、成長するにつれ保護者による送迎が難しくなり、現在は家で過ごしている。車いすを利用しているが、住んでいる地域は段差や坂道、未舗装の道路が多いため、一人で外出することはできない。家族の支援を受けながら生活しているが、軒先に座って外を眺めながら過ごすことも多く、それが当たり前の生活となっている。サビットリさんは、「自立生活センター」の同じく車いすを利用しているスタッフから、社会に出て生活していくことや、家族以外の支援を受けていくことなどについて、経験に基づいた話を聞いた。また、同行していたAMDAの日本人専門家から理学療法を受けることもでき、NDWSのスタッフにとっても学ぶことの多いワークショップとなった。NDWSは、今後もこの団体と協力して同様のワークショップを実施していくことを検討中である。

12月29日には医師をデイケアセンターに招いて無料の健康診断を実施した。デイケアセンターに通う子どもたちのほか、近隣に住む障がい児・者も参加し、身長や体重、内科健診などを受けた。参加者には石鹸や歯ブラシなどが配布され、受け取った子どもたちはとてもうれしそうであった。デイケアセンターの子どもたちは定期的に健診を受けたり病院に行ったりする習慣がないため、NDWSは開催費を負担してくれる支援者や医師を無料で派遣してくれる病院を見つけるなどして、なるべく年1回は無料の健康診断を行うようにしている。

国内活動報告

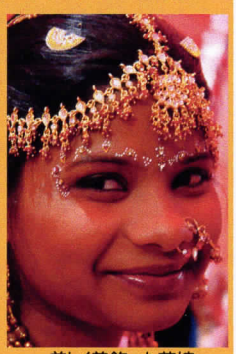
‘18年9月29日（土）、30日（日）に東京のお台場センタープロムナードにて、グローバルフェスタJAPAN2018が開催された。

例年通り2日間の開催予定であったが、大型台風の影響で、30日の開催は中止となった。予定されていた活動報告コーナーでの講演もキャンセルとなり、雨模様で人もまばらな中での販売は苦戦を強いられた。そのような状況の中、マイティのホスピスやレスキュー・ファンデーションで作られた商品をひとつでも多くお客さまの手に取っていただけるよう、ボランティアの皆さんがずぶ濡れになりながら熱心に販売をしてくださった。今回の活動にご協力いただいた皆さんに深く感謝申し上げたい。

Information

ブライダル基金

レスキュー・ファンデーション（RF）では、人身売買の被害者の女性の自立支援のひとつとして、結婚を望む男性との縁組を行っています。インドでは、金のアクセサリーやサリー、日用雑貨を嫁入り道具として持参しており、一人当たり7～9万円の費用がかかります。また、挙式費用として13～15万円ほど準備しなければなりません。そこで、当会では『RFブライダル基金』を設け、結婚式にかかる費用を、**一口 1,000 円**としてご協力いただいています。



美しく着飾った花嫁

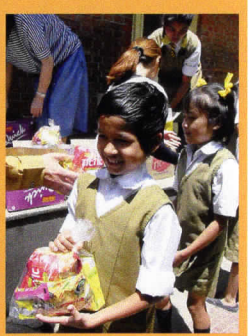
職業訓練

プリベンション・キャンプにて縫製技術を学んだ女性に対し、卒業時、1台のミシンと仕立て屋開業に必要とされる道具一式を提供しています。一人当たり、12,000 円の資金が必要とされます。女性たちの夢の実現に向けて、**一口 1,000 円**として、ご協力をお願いいたします。

お菓子プレゼント

マイティ・ネパールに在籍する子どもたちやネパール障がい者女性協会に通う子どもたちは、貧困家庭の出身者が多く、お菓子を食べる機会が滅多にありません。そんな子どもたちに、年2回のお楽しみ企画として、ラリグラス・ジャパンは20年以上、お菓子の詰め合わせプレゼントを続けてまいりました。

4月3日より、代表の長谷川が現地調査へ赴きます。現地調査の際にお菓子の詰め合わせをプレゼントする予定です。そこで、お菓子をプレゼントするための一口 **1,000 円**の寄付をお願いしたいと思います。ご協力よろしくお願いいたします。



振込先はこちら!

郵便振替

口座番号：00100－5－713661
加入者名：トクヒ ）ラリグラス ジャパン

※銀行振り込みの場合
銀行名：ゆうちょ銀行
支店名：0一九（ゼロイチキュ）店（019）
口座番号：当座 0713661

銀行振込

銀行名：三菱東京UFJ銀行
支店名：麻布支店（店番：570）
口座番号：普通預金 0158054
振込先名義：トクテイヒエイリカツドウホウジン ラリグラスジャパン